

浄信寺通信

号夏年9平成

名古屋市中村区名駅五丁目二〇番三
宗教法人浄信寺収益事業部羽塚孝和
TEL (〇五二) 五六一一七三六
頒布価格年 千三百円
(檀信徒会費)

「夏まつりとお盆」

自坊の近くの円頓寺商店街では、普段は買い物客も少ない商店街が、毎年七月末の七夕まつりのイベントには、多くの人が集まる。七



■名古屋市西区円頓寺商店街の七夕まつり風景

月初旬に、幼稚園帰りの児童の手には、笹に短冊を結びつけた七夕さんのお飾りを持って家路に帰る光景にときおり出会う。あの幼稚園児が、自分の歳になった頃に、この国は、どんな姿になっていくのか？ふと年甲斐もない事を空想したりするのである。どんな願い事を、今の児童は書いて笹に結びつけているのか？そんな興味を覚える。

七夕さまも、ある意味では、日本人が伝承してきた美

しい行事（慣習・習俗）である。こうした行事も、本来の意味が忘れられて、集客の為の商店街のイベント（行事）として行われているに過ぎないかも知れない。

五来重氏の提唱された、仏教民俗学の研究によれば、日本人にとって「先祖」は神であり、それは子孫に幸いをもたらす面と、災いをもたらす面の両面性があった。幸せを願い、災いを鎮めるために、村落（共同体）では、定期的な祭りが行われていた。

村落でおこなわれていた夏祭りの多くは、過ぎた去った半年の無事を「祝い」後半の半年に災いが起きないように「願い」「鎮める」意味が含まれていた。それが夏の「まつり」でもあった。

日本各地で行われる「夏まつり」の多くには、こうした日本人の霊魂観や宗教観を抜きにしては、語れないのである。

「お盆」も、今では、仏教化してありますが、その根底には日本古来の鎮魂のための先祖祭の意味が含

まれており、家庭で行われている大きな年中行事は、【盆】と【お正月】ですが、お正月に祀る先祖（神）は、既に鎮められてしまった先祖（神）であるが為に、鎮魂儀礼をしなければならぬ意味が薄れて解らなくなってしまうが、【お盆】は、今でも多くの日本人は、ご先祖さまに対するまつりと言う意識を、濃厚に残している。

こうした、鎮魂の儀礼は、盛大に行う事で、大きな力が得られるという観念があり、京都祇園祭の山車巡幸や、盆踊り等が盛大に行われたのである。祭礼の前日の夜を「宵（よい）祭り」と称して賑やかに行われるのも、日常生活の日中より、非日常の夕方から夜にかけては、人智（人間）の能力を超越した、神や仏が盛んに活動する時間と、日本人は考え、神仏の力をより強く引き起こさせるために盛大に行われたと言われている。夏祭りの季節がやってくるとそんな事を思うのである。

※参考書籍引用

（『踊り念仏』・『仏教と民俗』

五来重：平凡社）

現代社会と仏教

浄信寺候補衆徒 羽塚 高照

現在、私は東京にある宗門の研究機関で仕事をさせていただいています。東京に住んで三年目になります。東京というところは、やはりと言うべきか、当然と言うべきか、それまで住んでいた名古屋あるいは京都という都市とは比べものにならないところです。

東京に住み始めてまず驚かされたのは、人の多さでした。中央線というJRの沿線に住んでいるのですが、中央線は、その名の通り、東京駅からちょうど環状線の真ん中を横切り、新宿を通って立川、八王子方面へと伸びる路線です。朝のラッシュ時には、それこそ二、三分おきに電車がホームに入ってきます。そのすべてが既にスシ詰め状態なのです。私は、普段の通勤には中央線に乗り入れている別の路線を利用しているのですが、その「日本一混む路線」を直接体験することは少なくて済んでいます

が、見ているだけでも、それは「異常」と感じざるを得ません。毎日それで通勤している人たちは、通勤するだけで精神をすり減らしているに違いありません。

また、東京の電車および地下鉄の路線の複雑さは、三年経つてもとても覚えきれず、今でも混乱するほどです。中心から離ればそれほどでもないのですが、二十三区内は地下鉄の路線が張りめぐられ、特に環状線の中は、どの地点からでも、どの方向にでも、十分間も歩けば、かならずどこかの地下鉄の駅に行き当たる、と言われるほどです。

それほどの複雑さと混雑ですから、何らかの大小のトラブルは日常的に起こっているようです。「〇〇駅で車両トラブルのため、現在、〇〇線は前面運休しております」「〇時〇分頃起きました人身事故の影響で・・・」という類

のアナウンスや電光掲示を、耳にした目にするのではない日の方が、少ないのではないかと思えます。大したことはない電車の遅れでも、アナウンスは過剰です。「只今、3分の遅れをもって運行しております。お急ぎのところご迷惑をおかけしまして、まことに申し訳ありません。」これを何度もし繰り返します。もともと5分か10分おきのダイヤであっても、です。多くの人に大きな影響が出るようなトラブルが発生した時、普段は感情を押し殺して黙々と目的地へ急ぐ人の群れが、一挙に殺伐とした雰囲気へと変わります。

「おいおい、何をしてきているんだ」(こっちは仕事で急いでいるのに)——決して口には出しませんが、そんな感情で車内は溢れかえります。電車が遅れたり、事故があったりすることも、確かに嫌なことなのですが、そのこと自体よりも私は、その殺伐とした空気になることの方が嫌いです。少なからず私もその中に巻き込まれたことがあるのですが、そんな時、私の感情もその殺伐とした空気の一分分となっていたことでしょう——「やれやれ、またか」

と。

何だか東京の悪口ばかりを書いているようですが、とはいっても東京は日本のあらゆることを中心ですし(一極集中が過ぎるという意見にも賛成しますが)、いろいろと便利であることは事実です。しかし、先ほどの通勤地獄もしかり、地下鉄の路線の網の中で右往左往する私もしかり、明らかにいき過ぎた集中化が招いている負の面も、日々感じずにはいられないのが、東京というところで暮らす、いまの私の実感です。

※

昨年のことです。千葉方面から東京方面へと河川をまたぐ送電線が、船の事故によって断ち切れ、東京都内が大停電となり、交通機関もマヒし、何百万という人の足に影響を及ぼしたことがありました。たまたま、私は名古屋に帰省中で、テレビでそのニュースを知りました。東京に住んでいなければ、特に自分とは関係のない出来事だったと思うのですが、その時の私は、東京に住んでいるが、それを外から見ているという、少し不思議な立場にいたというこ

とで、そのニュースをよく覚えて
います。

「都市生活の脆弱さ」というこ
とは、台風、大雪、あるいは地震
などの自然災害が起こるたびに繰
り返し指摘されてきていることで
すが、その時、あるニュース番組
のコメントーターが、「油に浮い
て、電気に動かされている社会」
という旨の発言をしました。今と
いう時代を端的に捉えている言葉
として、とても印象に残っていま
す。

※

話は変わりますが、「バイオ燃
料」ということが話題に上るよう
になって、もう久しいと思いま
す。バイオ燃料とは、トウモロコ
シやサトウキビなどの有機物を材
料にしてつくられる燃料のことデ
す。原料の植物は、生育段階で光
合成をして二酸化炭素を吸収して
いるので、それを燃やしたときに
二酸化炭素を排出しても、全体と
して二酸化炭素の量はプラスマイ
ナスでゼロになります（少なくと
も論理的にはそうなるらしいで
す）。また、石油は枯渇するのが
心配ですが、植物にはその心配は
ないことなど、バイオ燃料は、現

代そして今後、我々が直面するで
あろう危機を乗り越える救世
主・・・なのかと思いきや、いい
こと尽くめでは決してないよう
で、バイオ燃料が注目され、その
分野の産業も急成長しているおか
げで、原料となるトウモロコシな
どの穀物の値段が上がり、またそ
れを飼料とする牛肉の値段が上
がり、はたまたマヨネーズの値段も
上がった（とんだとばっちりで
すね）と、さすがにそう簡単には
いかないようです。

先日も、ニュースを見ていた
ら、バイオ燃料の原料となるトウ
モロコシや大豆の畑をつくるため
に、ブラジルの農民が焼畑をして
森林を切り開き、森林が消失する
スピードが近年アップしてきてい
るという報道がされていました。
その森林開発の多くが違法行為の
ようです。ただし、単純に、ブラ
ジルの農民を非難することはでき
ません。それは体のいい責任逃れ
だと思えます。違法行為をしてで
も畑をつくり、バイオ燃料の原料
を買ってくれる先進国があるか
ら、ブラジルの農民はそうするの
です。地球環境の保全を推進させ
るべき先進国が、グローバル化の

進む世界経済の中で、結果的に環
境破壊を助長させていることは間
違いないでしょう。環境によいか
らと注目され、開発・実用化され
てきたバイオ燃料が、こともあろ
うか、さらなる環境破壊の一翼を
担ってしまっているのです。つく
づく人間の愚かさを感じずにはい
られません。

※

さて、取り留めのない雑感ば
かりを書いてきましたが、私はこの
文章に、「現代社会と仏教」とい
う、大げさなタイトルを掲げてい
ます。いま直面している、現代の
問題や、環境破壊に対して、果た
して仏教はいかなる対応ができる
のか、仏教の智慧はいかなる解決
の糸口を見出せるのか、という意
味です。これは大きな問題で、す
ぐに答えが見つかるようなもので
ありません。

仏教の伝統が一貫して主張して
きたこと、仏教の精神的な伝統は
何かということ、それは、私たち
の行動の原動力となり、そしてあ
らゆる苦悩の根本的な原因となっ
ているのは、私たち一人ひとりの

利己主義や自我意識や所有欲なの
だ、ということだと思います。私
たちは、自然環境破壊の時代を生
きているのだ、その責任は我々一
人ひとりにあるんだ、ということ
を正直に認め、それを厭い離れる
心のあり方をもつ、そういう時が
きていると思います。欲望や利己
主義といったものを完全になくす
ことは不可能なのですが、いま現
代にこの仏教の根本的な教えを応
用しようとするのなら、そういう
ものをなくす方向の生き方を、
少なくとも理想として探求してい
かなくてはいけないのだと思いま
す。

仏教の經典は語りかけていま
す。あなたたちは、欲望に突き動
かされ、自我意識に縛り付けられ
てきた、それまでのあり方とは
まったく違った新しい生き方を生
きるができる存在なのだ、
と。少なくとも、ブッダは我々が
そうなることを願っています。

*本稿最後の部分は、私の大谷大
学時代の恩師荒牧典俊先生の思
想、ご著書に多くの示唆を受けて
いることを付記しておきます。

「節談説教布教大会」開催される

東京築地本願寺に全国から二五〇〇名参加



焼き刃的なお説教や法話にこれほどの人が集まるのであろうか。

話芸研究一筋に研鑽されてきた関山和夫氏によれば、「説教と学問は異質なものであり、説教者の信仰を背景にした音声の荘厳である。単なる言葉の伝達ではなくて、聴聞者の耳に残る音声」その言葉そのものを、痛感したのである。真宗に伝承されてきた独自の布教方法の【節談説教】の凄さを改めて知ったのである。

トリ(最後)に口演された大谷派能登満覚寺住職の広陵兼純師のお説教は、著名な落語家や講談師の「噺」を凌駕して余り有る声と迫力・説得力がある事を多くの参加者は納得されたと思うのである。

今や節談を語れる方は、ほんの数人に過ぎない危機的状况ではあるが、幸いにしてこの築地本願寺の大会を契機に、関山博士を中心

平成十九年七月三日(火)東京築地本願寺(お西)には、宗派を越えた六人の節談説教の伝承者による「節談説教布教大会」が開催された。平日にもかかわらず、全国から二五〇〇名を越える人が集まり、用意された二会場では入場出来ず、急遽別室でモニターTVを設置しての大会でした。

今風の、難解な宗学の四字熟語を羅列しての大学での授業の様な、付け

に、真宗各派の僧侶や研究者が集まり、節談説教による真宗の興隆と資料の蒐集や、後継者の育成を目指して、「節談説教研究会」(会長浅井成海龍谷大学名誉教授)が結成された事は、真宗に於ける新しい風になると信じるのである。

平和公園墓参のご案内

日時： 8月12日(日)
13日(月)

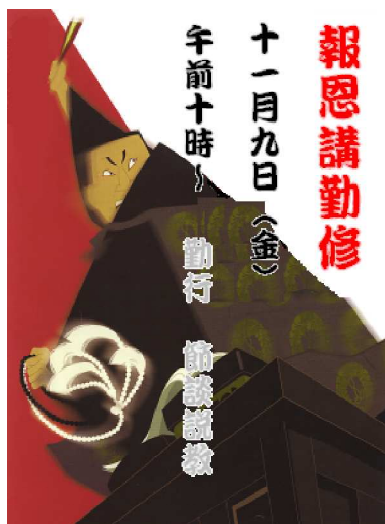
：午前8時頃～午後1時頃

修勤講恩報

平成19年11月9日(金)
午前10:00
勤行・説教・おとき

住職の節談説教 又は落語有り

演目はお楽しみに



【編集後記】

今年は、六月から夏日・台風・各地での地震。何か、自然を征服したと、自惚れている現代人に対する自然からの警鐘かも知れないそんな気がします。本通信を出すのが、例年より遅れた事お詫びします。